

【山の日記念】第 39 回夏休み木工教室開催 ～アコーディオン型ラック作り～

令和 8 年 7 月 30 日(木)、近畿農政局和歌山県拠点、和歌山県西牟婁振興局林務課及び OF 会に協力いただき、夏休み木工教室を和歌山森林管理署の大会議室で開催しました。

この夏休み木工教室は今回で第 39 回目を迎えることとなり、8 月 11 日の「山の日」の記念と、今年 11 月に和歌山県白浜町で開催予定の「第 49 回全国育樹祭」の PR をかねて、こどもたちに木に親しんでもらおうと企画したところ、夏休みの宿題や思い出づくりにと、近隣の小学校から 5～6 年生 10 名が参加してくれました。

作品作りに先立って、和歌山森林管理署長の上野及び近畿農政局和歌山県拠点副参事官の喜多氏からの挨拶、担当職員による道具の使い方や作り方の説明などを行いました。

その後、こどもたちはスタッフのサポートを受けながら「アコーディオン型ラック」の制作に取りかかり、それぞれの材料に鉛筆で墨入れを行い、ノコギリで板材を切っていました。

こどもたちのほとんどが曲尺やノコギリを一度も使ったことがなく、鉛筆での墨入れ箇所が多いうえ、節があつたりして切ることが難しい場面もありましたが、がんばって上手に切れると笑顔がこぼれていました。

午後からの森林教室では、山の働きについて、山や森が地球温暖化防止に役立っていること、水をきれいにしてくれること、土砂崩れを抑えてくれていること、この夏休み木工教室での体験が自然のことを考えるきっかけになればといった話をさせていただきました。

農政局からは、パイナップルがどのようにして実るのかをクイズ形式で考えたり、名前の由来となった Pine (パイン) = 「松ぼっくり」を、水につけておくと、中身の種子を守るために松かさが開くことなど、普段はなかなか知ることのない植物のお話を聞かせていただきました。こどもたちはみんな、真剣に耳を傾け、質問に対しても元気いっぱい答えてくれていました。

また、作成中は地元紙である紀伊民報の取材もあり、この活動の様子が多方面に知ってもらえる良い機会となりました。

最後にそれぞれが完成した作品を手にとって集合写真を撮影し、笑顔で楽しい 1 日をしめくりました。

当署では、地域のこどもたちが木のことを知る機会を提供し、少しでも森林・林業に関心をもって理解を深めてもらうために、今後もこのイベントを継続していきたいと思っています。

※ OF 会：オールドフォレスターの会。森林管理署等の退職者で構成された団体で、国有林をフィールドとしたボランティア活動を行っています。



初めてのノコギリ



キリで穴あけ



もうすぐ完成



森林教室



最後に記念撮影